

(令和2年12月23日)

12月22日に実施した新型コロナウイルス感染症の検査の結果、市内で新たに136～140例目(県内182～186例目)となる感染者が確認されました。

この方々は、いずれも松江市内在住の方です。

136例目の方は、30歳代の男性です。12月16日に37度台の発熱があり、18日に市内の医療機関を受診されました。

濃厚接触者である137例目の方からの聞き取りから、昨日22日島根県保健環境科学研究所でPCR検査を実施し、陽性であることが判明いたしました。

現在の症状は、咳があります。

次に、137例目の方は、30歳代の女性で、136例目の同居者です。12月20日に38度台の発熱、頭痛、咳、倦怠感の症状があり、21日に市内の医療機関を受診され、昨日22日に島根県保健環境科学研究所でのPCR検査の結果、陽性であることが判明いたしました。

現在の症状は、頭痛、鼻づまりがあります。

138例目から140例目の方は、136例目と同じ勤務先であり、昨日22日の島根県保健環境科学研究所でのPCR検査の結果、陽性であることが判明いたしました。

発症時の症状については、それぞれ配布資料のとおりですが、現在は138例目、139例目に症状はなく、140例目は鼻づまりと痰があるとのことでした。

5人はいずれも、保健所の指導の下に自宅で待機し、本日12月23日に、感染症対策を講じた医療機関に入院される予定です。

現在、それぞれの行動歴調査を実施しておりますが、発症2日前からの感染可能期間で出勤されていることから、勤務先での接触の程度等状況把握とともに、濃厚接触者の特定を進めています。

発症2週間前に遡った調査で、136例目および138例目から140例目の方を含む同じ勤務先の方々に会食されたことを確認しております。

また、136例目については発症2週間前までの期間内に県外への移動歴があることを確認していません。

今後も調査結果を踏まえ、必要に応じて幅広い検査を実施するなど、引き続き感染拡大の防止を図ってまいります。

全国ニュースでは都市部の医療提供体制のひっ迫に関する報道がなされておりますが、現時点県内ではそのような状況にはありません。

しかしながら、県内でも断続的な感染者の発生が続いています。

市民の皆様には、感染防止の基本である「フィジカルディスタンスの確保」「手洗いの励行」「マスクの着用」のほか、「三密の回避」や「換気と加湿」にお取り組みいただきますとともに、感染のリスクが高まる会食の場面や、家庭内での感染対策などにも十分留意のうえご協力いただきますようお願いいたします。

なお、新型コロナウイルス感染症は誰でも感染する可能性があります。患者やその関係者を励まし、応援する思いやりの心を持っていただきますよう、重ねてお願いを申し上げます。